

# 名古屋汎太平洋平和博覧会の背景

The Background of the Nagoya Pan-Pacific Exhibition in 1937

中 田 平

Hitoshi NAKATA

## はじめに

「愛・地球博」と命名された万国博覧会が、2005年3月25日～2005年9月25日の185日間にわたって名古屋東部丘陵（長久手町・豊田市、瀬戸市）を舞台にして開催されようとしていて、この時期ようやく盛り上がりを見せている。目標入場者数は公式には1500万人（1日平均入場者数81,081人）とされている。しかし、愛知県と名古屋市がオリンピックや万国博覧会の開催に執拗にこだわり、他府県の住民ばかりでなく、愛知県民や名古屋市民からも失笑を買ったのも事実である。愛知県や名古屋市当局がここまで博覧会開催にこだわるのには、これまで名古屋を中心にした博覧会が何度も開催され、博覧会開催を地元産業興隆の起爆剤としてきた歴史があるということあまり知られていない。名古屋という都市が一部で「博覧会太り」と称されるゆえんである。なかでも1937年に開催された名古屋汎太平洋平和博覧会は、第二次世界大戦の前夜に開催されたことにより、昭和史に埋もれて忘れ去られてしまった。一般に、博覧会というのは一過性のイベントではあるものの、

その時代の産業と社会を網羅的・集約的に展覧するものである。本論は名古屋汎太平洋平和博覧会を当時の社会のなかに置き直してみることによって、汎太平洋博覧会の意味を再検討してみようという限定的な試みである。

## 1. 名古屋で行われた博覧会

名古屋で開催された博覧会は以下のとおりである。

### ●1910年（明治43年） 第10回関西府県連合共進会

関西府県連合共進会という表現のとおり、愛知県は行政的には「関西」圏に分類されていた。新修名古屋市史第6巻によれば、「関西府県連合共進会は、明治16年に大阪府が主催して1府16県が参加して始まり、以後、3年（実際には3年から5年の間隔）おきに持ち回りで開催されてきたものである。」<sup>1</sup>とある。「名古屋での開催が決定されるや、会場としては、公園となることが決まっていた鶴舞の地を名古屋市が提供し、大半が田圃であった会場予定地の埋立が行われた。・・・共進会の会期は四三年三月一六日から六月一三日

1 『新修名古屋市史』第6巻 88ページ。

までの九〇日間で、来場者は二六〇万人に達した……名古屋市は、記念館（待賓館）および開府三百年記念としての噴水塔・演舞場・奏楽堂を建設した。」<sup>2</sup> 共進会は名古屋ここにありを全国に広めることに成功したが、同時に名古屋人の目を広く開かせることにも貢献したようだ。「『名古屋新聞』（四三・六・一九）は・・・金鯨や、情趣のなにもない記念碑に固執する「余りに箱庭趣味骨董趣味茶の湯趣味」から脱することが名古屋にとって必要であり、「偏狭固陋なる趣味を掃蕩するには今後の共進会は最も有力なるもの」と位置づけた。」<sup>3</sup> 亀田忠男氏によれば、「会場となった鶴舞公園は、近世フランス式回遊の設計に加え、松尾宗五と村瀬玄中による日本庭園を加えた、和洋折衷になっている。

また公園内の奏楽堂と噴水塔は、当時、新進気鋭の名古屋高等工業学校教授・鈴木貞二の設計。噴水塔は今もその原型のままである。

当時としては、派手な近代的なパビリオンで演出した。

機械館、特許館、台湾館、空中天女館、パノラマ館、不思議館、世界一周館、活動写真館、舞踏館など。」<sup>4</sup> であった。

#### ●1928年（昭和3年）御大典奉祝名古屋博覧会

会期は9月15日から11月30日までの77日間、上の共進会と同じく鶴舞公園を会場として開催された。入場者数は1,940,600人（1日平均入場者数25,202人であった。この博覧会の痕跡は残っていない。『新修名古屋市史』にも詳細な記述がないほど印象が薄いようだ。

#### ●1937年（昭和12年）名古屋汎太平洋平和博覧会

名古屋市南区（当時）臨港地帯を会場に3

月15日から5月31日の78日間開催され、敷地面積は15万坪（496,857平方メートル）に及んだ。10万坪であった先の共進会の1.5倍の敷地であった。博覧会前年に作られた平和橋が現在も港区に唯一残存するが、最近コンクリートに改築された。その他の残存する建築物としては、徳川美術館に蘇山荘という和風建築が移築され、結婚式場として利用され、つい最近改装された。

#### ●1989年（平成元年）世界デザイン博

名古屋市熱田区の国際会議場ほか市内2会場で1989年7～11月、市制100周年記念事業として開催され、市内3会場に延べ約1518万人が入場したとされる（1日平均101,200人）。残念なことに施設購入訴訟が起こされ、名古屋市が主催者の財団法人「世界デザイン博覧会協会」（会長、西尾武喜・元同市長）から購入したのが違法な公金支出だとして、西尾元市長らに返還するよう求めた住民訴訟があった。

## 2. 名古屋汎太平洋博覧会の参考資料

### 『名古屋汎太平洋博覧会会誌』上中下3巻

名古屋汎太平洋平和博覧会の全体像を後世に残そうという1800ページを超える3巻の資料の編纂方針は徹底的で、真の意味でドキュメントと呼べるほどである。会誌の「総序」において博覧会の開会の趣旨を掲載することを始めとして、開催計画から実現まで詳細かつ簡便に整理している。「儀式」という項目では奉戴式・開会式から閉会式までを詳細にレポートしている。第3部の「建設」では埋立工事に始まり建物すべての設計図を掲載しているばかりか、実際の工事を受注した請負契約一覧も掲載するという徹底ぶりである。また、道路・橋梁・電気・ガス・上下水道・

2 同上、89～90ページ。入場者数は一日平均28,888人に上ることになる。

3 同上、92ページ。

4 亀田忠男『大岩勇夫と大名古屋～ビックリ市長の街づくり～』社団法人 地域問題研究所 54ページ。

造園から鉄道・路面電車の工事資料にいたるまで漏れというものがない。パビリオンごとの出品の詳細も徹底的に網羅しており、演芸や催し物や出し物も出演者全員の名前一覧まで残すという徹底ぶりである。また、博覧会の広報宣伝の方法についても事細かにしかも整然とまとめられている。ポスター、新聞と雑誌、ラジオは当然として、立看板、駅弁包装紙、宣伝マッチまで残さず掲載するのは微笑ましくもある。掲載した写真の枚数もおびただしく、そればかりか、入場券をはじめとした各種の印刷物も当時は貴重なカラー印刷で掲載するという力の入れようである。

#### 「名古屋汎太平洋平和博覧会画報」

上の資料を補完する資料として、朝日新聞社が同年3月30日（博覧会開場直後）出版した34ページ立ての「名古屋汎太平洋平和博覧会画報」は会場の写真を大量に掲載して、当時の風景を生き生きと伝えている。

#### 「名古屋汎太平洋平和博覧会フィルム2巻」

資料収集の過程で、汎太博を撮影した60分に及ぶ16ミリフィルムが発見された。会誌の編集方針と同じく、会場の埋立て工事から空撮による会場全景、建物の網羅的な撮影に至り、夜間撮影も含み、最後は閉会後の建物の撤去風景の撮影までと漏れがない。空撮で会場全体が見えることは素直に驚きであり、また夜間会場の撮影がどのように行われたかの技術的な興味も含めて貴重な資料となったのは言うまでもない。<sup>5</sup>

#### 「新聞号外」

新愛知新聞と名古屋新聞という別個の新聞社が昭和12年3月15日の開会式当日にそれぞれ号外（臨時夕刊）を発行している。現在では両社は合併して中日新聞社となっている。

#### 「絵はがき」

収集家の手元にあった彩色された絵はがきは、博覧会の色合いが想像できる唯一の手がかりとなった貴重な資料である。

その他の資料としては、汎太博行進曲、名古屋娘、名古屋囃子、三傑節のレコードと楽譜が残っている。

### 3. 名古屋汎太平洋平和博覧会の都市整備状況

会誌上巻総序には次のように「汎太平洋平和」博覧会の由来を述べている。

「世界ノ繁栄ハ各国民ノ進化ニ対スル不断ノ協力ト平和ニ対スル恒劫変リナキ支持トニ頼リ限リナク向上ス、世界文化新局面ノ生成ヲ予想セラルル太平洋ニ世界ノ福祉ノタメ沿岸諸国民ノ此ノ高貴ナル協力ト永久ノ平和ヲ将来センコトハ我等関係各国民共同ノ念願ニシテ又高貴ナル使命ト謂ハザルベカラズ」<sup>6</sup>

掲げられた開催趣旨を要約すると次のようになる。

名古屋市は太平洋に面して日本の中央にある。市政49年に及び人口120万になろうとしている。工業生産年6億円、近隣を加えると12億円に達する。物流貨物は年1100万トンに及び、横浜、神戸、大阪に次ぐ港になった。昭和12年は名古屋港開港30周年にあたり、前後3700万円の巨費を投じて港の整備を行い、また工費2500万円で名古屋停車場の大改装工事もすませ、国際飛行場、国際観光ホテル、大動植物園、主要街路の拡築、市内外交通機関の整備等、次々として行っており、大都市への変貌を遂げる途上にある。その名古屋市で国際的な博覧会を行うことで、太平洋沿岸の諸国の交流を深めて平和の増進に役立てよう。

こうしてみると、愛・地球博開催のこの時

5 フィルムは2巻セットが市政資料館に寄贈されていて、VHSテープに変換されていた。フィルムはコックスプロジェクト株式会社によってデジタル化され、市政資料館に寄贈された。

6 『名古屋汎太平洋博覧会誌』上 1ページ。

期、名古屋駅の改修及び駅周辺ビルの再開発、中部国際空港の開港、といった名古屋の都市整備の状態が、汎太博の時期と酷似した様相を呈しているのに驚かされる。では、汎太博当時の都市整備の状況を詳しく見てみよう。

●**人口**：1925年（大正14年）の第2回国勢調査で、名古屋の人口は80万人を超えていた。昭和5年の国勢調査では人口100万人を超えると予想されていたため、名古屋市は「人口百万記念」と銘打った大々的な記念行事を行った。しかし、実際には90万人をわずかに超えたばかりで、100万人には達しなかった。10月21日の発表では、名古屋907,402人、大阪2,452,569人、東京2,070,529人、神戸787,596人、京都765,142人であった。しかし、膨張する都市人口の勢いに高揚した名古屋市民はこの失態の責任を市長大岩勇夫に負わせようとはしなかったほどおおらかであった。実際、7年後の昭和12年には120万人に達していたのである。<sup>7</sup>

●**工業水準**：1929年（昭和4年）のニューヨーク株式市場の暴落を発端とした世界恐慌からようやく名古屋の経済が底をついたのは1932年（昭和7年）夏のことであった。「6年に1億0291万円にまで低下した名古屋港の外国貿易総額は・・・9年には6年の二倍の2億0404万円に急増した。・・・工場数の増加・大規模化と労働者数の増大は、工業生産額を増大させた。7年には3億円台にのせ、9年には6年の倍以上の5億1572万円に達した。この急速な生産額の増大を牽引したのが、繊維工業と金属・機械器具、わけても機械器具工業であった。」<sup>8</sup>

●**街路整備主要道路の拡築**：名古屋の都市

計画は上遠野富之助が1911年（明治44年）の市会で市区改正調査会設置の建議案を提案したことに始まる。調査会は翌明治45年に「①将来の拡大市域、②道路の等級・幅員、③道路の配置、④橋梁の等級・幅員、⑤河川の新鑿・改修、⑥公園・街園の設置、⑦鉄道線路の変更」<sup>9</sup>という都市計画のグランドデザインを終えた。名古屋は街路整備を行い、隣接町村の合併を果たし、都市整備の実を着々と実らせて行ったのである。1919年（大正8年）から1922年（大正11年）にかけて電車軌道を予定した5大幹線道路（岩井線・高岳線・千早線・明道線・大津町線）を整備した。しかし、この幹線道路では街路計画として不十分であるとして、1924年（大正13年）「広路1路線、一等大路第二類14路線、同第三類24路線、二等大路第二類1路線の合計40路線、総延長約8万0467間（約14万6303メートル）が決定されたのである。」<sup>10</sup>さらに、住宅地の確保のための幹線街路の整備が追加決定された。

●**運河・港整備事業**：街路整備は運河計画と一体であった。「①運河の機能は工業地と港湾・鉄道との連絡を主とすること、②中川、荒子川、山崎川、大江川の四大水路を開削し四大幹線運河とすること（堀川を加えれば五大幹線運河）、③中川運河は堀川と連絡させ、荒子運河は中川運河と連絡させること、④幹線運河を連絡する準幹線運河を設けること、⑤運河の方式は閉鎖式とし閘門により水位を調節する」<sup>11</sup>という決定を受けて、中川運河事業が始められたのである。汎太博会場には運河が作られて中川運河と連絡されていた。名古屋港の第三期工事は1920年（大正9年）に始まり、1927年（昭和2年）に終了した。

7 市長は昭和2年に就任した大岩勇夫であったが、この失態の收拾については『大岩勇夫』の第4章に詳しい。

8 『新修名古屋市史』567～568ページ。

9 同書、236ページ。

10 同書、251ページ。

11 同書、252ページ。



しかし、取り扱い貨物量の予想を上回る増加に伴い、第4期工事を内務省に申請し、同年10月に7年計画として着工した。

●**公園整備と東山動植物園**：名古屋市の緑化計画は日本初であり、1926年（大正15年）に24公園が作られることになった。「公園建設のなかでも特筆すべきは東山公園の新設である。東山公園は市東郊に広がる丘陵地の自然地形を生かして建設された公園であり、都市計画の第16号公園として計画された。全体の敷地は260万平方メートルもあり、その約三分の1にあたる80.8万平方メートルの区域に公園施設が設けられ、（昭和）10年4月に開園した。園内の東側には大温室・薬草園などからなる植物園（9.9万平方メートル）が配置され、入口から中にかけて動物園（14.9万平方メートル）が設置された。この動物園は元は鶴舞公園にあったものであり、当初は鶴舞公園附属動物園、4年4月から市立名古屋動物園と呼ばれてきた。名古屋動物園では飼育動物の補充と拡張が行われてきたが、東山公園の設置を機会にさらに拡張を図ることになり、市外からも多くの入園者を迎えることができた。また、同月初めには植物園が新設された。」<sup>12</sup> このように、東山動植物園の開園も汎太博に花を添えたのである。

●**国鉄名古屋駅**：2000年に改築を終えた名古屋駅ツインビル以前の名古屋駅は、汎太博開幕直前の昭和12年2月1日に、現在の笹島にあった旧駅から移転して開業したものである。その様子について駅長の石黒四三一がこのように書いている。「名古屋駅の沿革史は、それ自体が名古屋の発展史である。一世紀以前の明治19年（1886）、名古屋の街外れ、笹島のタンボの中に“笹島ステーション”と土

地っ子が名づけた、正真正銘の東海道線・名古屋駅が生まれた。・・・新名古屋駅ご自慢のP・Rは『議事堂より68m、戦艦陸奥より74m、ツェペリン飛行船より48m、と長い全長274mの、地下一階、地上六階のビルディング』であった。」<sup>13</sup> 笹島の名古屋駅は夏目漱石の『三四郎』に登場することで有名だが、1886年から1937年までのほぼ50年間使用された。また、昭和12年に改修した国鉄名古屋駅は63年間にわたって使用された。

●**国際飛行場**：名古屋の国際飛行場の建設は昭和7年にさかのぼる。「昭和7年（1932）、愛知県会において航空機時代の高まりに呼応、名古屋に大空港をつくる議決がなされた。・・・本格的な空港は、時間をかけた調査・計画と、膨大な予算をみこんだ数年間が必要とされることから、とりえず仮空港をとということで、開港させたのが昭和9年10月1日であった。「名古屋飛行場」と称した。名古屋航空協会が、愛知県から名古屋港の第十号地埋立地＝中川運河の河口あたり＝の一部使用許可を得て、維持運営に当たることになった。総面積は28万坪（約100万㎡）。日本一の空港を狙った。アメリカ・ニューヨークのフロイド・ベンネット空港の60万坪や、フランスのパリー・ルポーゲット空港の51万坪には及ばないにしても、東京空港の16万坪、大阪空港の9万坪、福岡空港の16万坪を遥かに凌いでいた。・・・しかしこの名古屋飛行場、拙速に過ぎて昭和15年10月1日に廃止が決まり、定期航空は打ち切れ、わずか6年の運命で終わってしまう。」<sup>14</sup> 現在の名古屋国際空港は戦後の昭和27年に開業することになるので、12年間は空港不在の都市になったわけである。

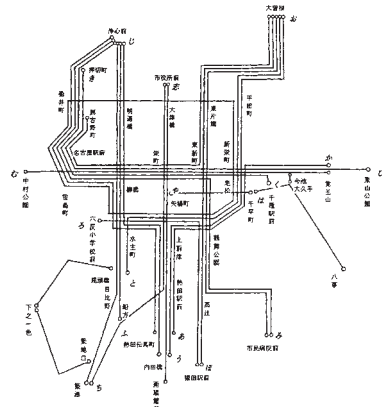
●**市内外交通機関の整備**：「名古屋駅が

12 同書、601ページ。

13 亀田『大岩勇夫』71～72ページ。

14 同書、81～82ページ。

(昭和12年)2月に開業し、3月には東山動物園・植物園が開園した年でもある。このため、名古屋駅を中心に建設・改良が行われ、笹島線(笹島町～名古屋駅前)、中村線の一部(笹島町～笹島警察前)、桜町西線(名古屋駅前～桜通入口)の各線が延長・新設された。その一方で、覚王山線の終点である覚王山と東山公園の間を結ぶ東山線が建設された。この結果、市東部の東山公園と同じく西武の中村公園の間が市電で結ばれることになった。この12年は、まさに年発展を背景としながらすすむ交通網整備のうへで記念すべき年であったといえる。」<sup>15</sup>市電のみならず、市営バスの開業もそれに引き続く。「大正12年(1923)以降、名古屋市内でバス事業を展開してきた民営企業は、乗客の取り合いをめぐって激しい競争を繰り広げていた。名古屋乗合自動車(通称名バス)、愛知乗合自動車(通称赤バス)、名古屋循環乗合自動車(通称循環バス)、中央乗合自動車(通称中央バス)、名古屋銀バス(通称銀バス)などによる競争がそれぞれあり、利便性を感じた市民は電車からバスへ利用交通機関を替えるようになった。こうした情勢を受けて名古屋市は、市営のバス事業を計画した。その目的は、民営バスに圧迫されるようになった電車事業を立て直すことと、いまひとつは新市部で増大している交通受容に答えることにあった。」<sup>16</sup>しかし、民営バスと市営バスの競争の激化が原因でバス業種全体が経営難にあえぐ結果を引き起こした。このため、名古屋市は民営バスを順次買収して統一的経営に乗り出した。「この結果、12年の時点で運転路線の系統は69を数えるにいたり、全営業キロ数は182.8メートルになった」<sup>17</sup>のである。



注 図中のひらがな文字は、運転系統の符号である。

図8-5 名古屋市内電車運転系統図(昭和12年8月)  
 (『大正昭和名古屋史』第5巻により作成)  
 (『新修名古屋市史』606ページより)

●その他のトピック：上下水道。下水道は他都市に先鞭をつけ、昭和8年までに堀留、熱田処理場、天白汚泥処理場、水洗便所の普及、伝馬町処理場と拡充を見せた。また、上水道は鍋屋上野浄水場に象徴される給水能力をみせ、昭和10年現在、大阪市330万人分(人口299万人)、京都市92万人分(人口108万人)、横浜市86万人分(人口70万人)、神戸市81万人分(人口91万人)に比較して名古屋市150万人分(人口108万人)と相対的に高い給水能力を誇っていた。また、観光ホテルが産官民の事業として昭和11年に開業したことも特筆していいだろう。

このようにして、名古屋汎太平洋平和博覧会は名古屋の産業構造の近代化と都市計画の集大成の位置づけを与えられて、華々しく開花することとなったのである。では、その概要を見てみよう。

#### 4. 名古屋汎太平洋平和博覧会の概要

日本政府は1940年(昭和15年)が皇紀2600年にあたっていたため、駒沢を会場に第12回

15 『新修名古屋市史』605ページ。

16 同書、608ページ。

17 同書、609ページ。

オリンピックの開催と月島で万国博覧会の開催を1937年（昭和12年）に決定していた。同年、盧溝橋事件の勃発によって日本の戦時体制への移行が急速に進んだために、翌1938年（昭和13年）、オリンピックも万国博覧会ともに開催中止となった。名古屋の博覧会は東京で予定されていた万博に配慮して、国際博覧会ではあるがPan-Pacificという限定をかけて太平洋沿岸諸国の参加を促したのである。

計画：計画と準備および経過については会誌上巻2ページから詳細に示している。それによれば、昭和9年11月19日名古屋市において名古屋市の紹介と産業文化の進展と国際平和の親善とを図る意義において博覧会開設に関する意見書が提案され、満場一致で可決、22日に市制第46条によって今堀市会議長から大岩名古屋市長に次のような意見書が提出された。

「意見書

本市政布かれて以来40有6年、その間市政は稀に見るの大発展をなし、今や人口百余万工産年額四億余円、海陸に吞吐する貨物1千余万トン、外国貿易また異常なる躍進を示し、我国四大貿易港の一つに数えられる誠に盛なりと云うべし。

而して大正8年本市に都市計画法施行せられ、大都市経営の態様ここに整い、都市施設また着々と実施せられ、先には市庁舎の建設なり、今国際飛行場の仮設せらるるあり、近く昭和12年に至っては大名古屋駅並びに第四期名古屋港修築の完成を見るべく、ここに大都市としての外容略成るに至るべし。時恰も名古屋開港30周年に際会すこの機に於いて一大博覧会を開設し、普く内外の産業を紹介して市民に更に一段の努力を促すと共に、本市また本市産業を広く世に紹介し、もって本市

が大都市としての発展途上に於ける一大画期たらしめんとす。以上の趣旨を体し、当局の速やかに博覧会開設計画を確立せられんことを望む。

右市制第46条により意見書提出候也  
昭和9年11月22日

名古屋市会議長 今堀辰三郎

名古屋市長 大岩勇夫<sup>18</sup>

引き続いて昭和10年1月30日に博覧会開設に関して篠原愛知県知事、大岩名古屋市長、岡谷名古屋商工会議所会頭などの関係者によって協議会が開催され、その結果昭和12年度に一大国際博覧会を開催することが決定され、2月12日に名古屋市参事会において博覧会準備金として昭和9年度の追加予算を提案承認し、2月28日に博覧会専任囑託を任命して準備事務に着手することになった。4月15日になると再度篠田知事、大岩市長、岡谷会頭など関係者が協議して、主催は名古屋市、会期は昭和12年3月15日から5月末日までとし、予算総額300万円とすることに決定した。7月には市役所内に博覧会事務局を開設して本格的な事務が始まった。会場敷地に関していくつ候補を挙げながら、最終的に名古屋港臨港地帯の南区熱田前新田に15万坪の敷地を作ることに決定した。

大岩は昭和12年2月27日午後6時25分から30分間にわたって名古屋中央放送局から全国中継のラジオ生放送を行った。

「名古屋汎太平洋平和博覧会について  
大岩会長 全国中継放送

全国の皆様に対し、ラジオを通じて名古屋汎太平洋平和博覧会のお話を申し上げる機会を得ましたことは、私の非常に光栄とするところであります。数年来、全国区各地に多種多様の博覧会が行われまして、いずれも、我

18 同書、2～3ページ。

国の文化の向上に、多大の寄与貢献をせられましたる後をうけ、また、三年後には、東京に於いて、皇紀二千六百年を慶賀祝福すべき万国博覧会が行われようとする矢先に当たり、なおかつ、名古屋市に於きまして、付帯事業費1600万円、直接経費300万円の拒否を投じ、本博覧会を開催いたしますことは、多大の意義抱負を有していることをご諒解願いたいのであります。ご承知のごとく、世界大戦以来政治に、経済に、軍事に、産業に、なおまた教育に、あらゆる観点に於いて、列強着眼の焦点は、太平洋に集まっておるのでありまして、世界の機局は、まさにここに、轉徒している形勢にあるのであります。そのような次第でありまするが故に、太平洋を繞ぐる、善隣友邦、相寄り相助け、共存の大誼を効して共栄の道を講じますことは、全世界のため、関係各国の高貴なる任務と謂うべきであると存じます。殊に、太平洋に君臨する我が大日本帝国は、これ等諸国の平和を保ち、文化を指導すべき大使命を有しているのでありまして、今回の汎太平洋平和博覧会の大目的も、実に、この点に存するのであります。

翻って、我が名古屋市の現状を見まするに、商工日本の天下を三分してその中枢を占め、膨浮たる国運に乗じて、世界的に飛躍に飛躍を重ねるに至っているのでありまするが、本年は恰も、名古屋開港30周年に相当し、海上に於いては前後3700万円の巨費を投じたる築港工事も略々、完成の域に達し、2万トン間での大汽船66隻を、同時に湾内岸壁に繋留せしむることができ、諸外国との直通航路も開け、陸上に於いては、2500万円の巨費を投じて少なくとも現在に於いては、東洋一の大停車場が、去る2月1日より開設せられ、国内はもちろん国際交通の要衝となって来たので

あります。その他、国際飛行場、観光ホテル、日本一とも呼称しうべき大森林公園、大動植物園等を始めと致しまして、あらゆる文化施設が、市の随所に最新最善の設備を誇り、新興大名古屋の市容はここに全く一新せんとしているのであります。これを契機として、国際都市としての進出の画期的事業として、今回の博覧会を計画致しました次第でありまして誠に畏き極みながら、本市に御縁故深き

東久邇宮稔彦王殿下を総裁と仰ぎ奉り、今や、関係役員を始めとして、百万市民は、心を一にして、愛市、愛国の赤心を捧げて本事業の大成に邁進しているのであります。更に、本市がこの挙を計画致しまするや、愛知県当局、名古屋商工会議所は、熱誠なる協賛の実を示され、政府よりは、本会の特殊の使命を認められ、特別補助金を交付せられましたのみならず、各般に亘り、多大の援助を与えておらるのであります。』<sup>19</sup>

大岩のスピーチはまだまだ続き、博覧会のパビリオンの概要から展示物の内容に至る。現在のようにテレビ・ラジオが民間放送のある多様な時代ではなかったため、全国民へのPR効果は絶大なものがあつたのではないかと推測される。

さて、会誌による汎太博の概要は以下のとおりである。

**名称** 名古屋汎太平洋平和博覧会  
**目的** 関係国間の文化並びに産業の発達、平和の増進  
**会期** 昭和12年3月15日から5月31日の78日間  
**会場** 名古屋市南区臨港地帯  
**敷地面積** 15万坪（496,857平方メートル）  
**組織**  
**主催** 名古屋市

19 同書、7～8ページ。中略し、読みやすくするためにカタカナをひらがなに直した。



**協賛** 愛知県，名古屋商工会議所

**後援** 政府，外地（満州国など），各道府県市及び内外諸団体。

経費総額は直接経費として300万円。

**出品** 産業，交通，教育，科学，土木，建築，社会，衛生，観光，美術，工芸等に関する出品，つまり当時の産業の全分野を網羅する。

出品区域 帝国領土，委任統治地，租借地並びに太平洋沿岸諸国その他本市と密接に関係ある諸国。

**総裁** 東久邇宮稔彦王。東久邇宮稔彦王は後に第二次世界大戦争直後第43代内閣の総理大臣となるが，この内閣は短命に終わっている。また，歴代商工大臣を副総裁に据え，会長に名古屋市長大岩勇夫があたった。こうして市内主要道路の拡築といった都市整備に時期を合わせた大名古屋計画の総仕上げの観を呈したのであった。

**入場者数** 当時116万人をようやく超えた名古屋であったが，入場者数は4,808,164人を数えた。この入場者数は日計による詳細な資料によって確認されている。1日平均61,643人に達した。世界デザイン博の101,200人，愛・地球博の目標81,081人と比較して遜色がない。

**内国** 朝鮮・台湾・樺太・鳥取県を除く各都道府県

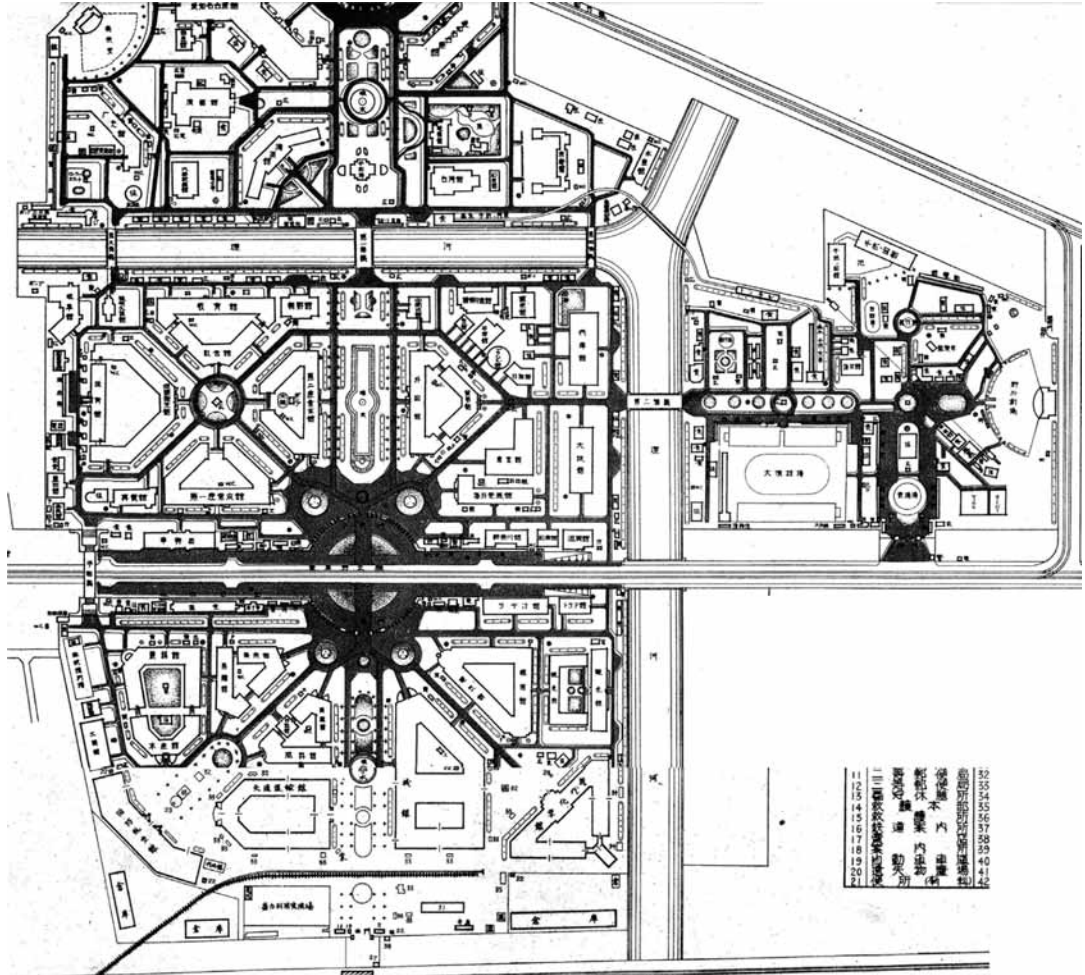
**外国の参加国**

国名	参加主体	陳列館名
満州国	政府関東局満鐵共同	特設館
蘭領印度	政府	同
伯刺西爾(ブラジル)	国立珈琲院	同
暹羅	政府	同
中華民國		
冀東	政府	同
冀察	平津両市工商界	同

天津	帝国民留民団	外国館
上海	帝国総領事館	同
墨西哥(メキシコ)	政府及邦人団体	中南米館
グワテマラ	政府	同
ホンジュラス	政府	同
コスタリカ	政府	同
サルバドル	政府	同
巴奈馬(パナマ)	市，会議所領事館	同
ヴェネズエラ	政府	同
哥倫比亞(コロンビア)	珈琲協会 日本領事館	同
	エクアドル駐在日本公使館商工農業会議所	同
秘露(ペルー)	政府並日本人商工協会	同
智利(チリ)	政府	外国館
豪州(オーストラリア)	政府	同
仏領印度支那		同
全般	総督府幹旋官民共同	同
東京	地方理事官庁	同
交趾支那	州政府	同
英領印度(ビルマ)	甲谷仏陀日本人会議所	同
ビルマ	蘭貢会議所	同
錫蘭(セイロン)	輸入業者組合	同
南阿連邦	政府	同
亜爾然丁(アルゼンチン)	在名亜国領事館	同
マイソール	王庁	同
新嘉坡(しむらかひ)	実業団体	同
比律賓(フィリピン)	日本人会議所	同
加奈陀(カナダ)	B.C.州ランバー・アソシエーション	同
玖瑪(キューバ)	公使館並実業団体	同
亜米利加合衆国		同
政府	農商務省	同
ダラス	亜米利加綿花輸出業組合	同
布哇(ハワイ)	日本人会議所及汎太平洋同盟	同
紐育(ニューヨーク)	帝国総領事館並実業団体	同
桑港(サンフランシスコ)	市及日本人会議所	同
沙市(シアトル)	十日會	同
羅府(ロサンゼルス)	会議所及愛知県人会	同

当初パラグアイ，ポリビアが不参加となり31カ国が名乗りを上げたが，最終的には以上の29カ国が出品した。

5. 会場概観



上の図は、博覧会会場全体図である。<sup>20</sup> 左が北、右が南の配置となっている。新修名古屋市史第6巻の付図3「大名古屋全圖」（昭和12年7月）によると、汎太博会場となった熱田前新田はすでに港区に編入されている。これはそれまでの4区制（中区・東区・西区・南区）から10区制（中区・東区・西区・南区に加えて、千種区・中村区・昭和区・熱田区・中川区・港区が新設された）になることにもなった区画整理であった。

会場敷地は江戸時代に干拓築造した熱田前新田で、会場として決定した当時は、低湿の

田圃に過ぎなかったが、昭和10年博覧会会場に決定すると、この地区一帯27万坪あまりにわたって平均高約1メートルの嵩上げを計画し、同年12月埋め立てに着手し、翌年7月末工事を終えた。整地後、埋め立て地盤の自然沈下が起こり、全面積の30パーセントが凸凹状態であったという。



3D-CG による会場の再現図

5.1 主系陳列館 場内施設として陳列館が約15,780坪を占める。施設は以下のものであった。この構成を見ると第二次世界大戦前の日本の産業構造が手に取るようにわかる。

主系陳列館

第一産業本館	763坪	燃料館	300坪
第二産業本館	763坪	資源館	300坪
愛知名古屋館北館	1,200坪	国防航空館	1,000坪
愛知名古屋館南館	800坪	交通運輸館	1,000坪
貿易館	300坪	通信館	300坪
外国館	500坪	ラジオ館	250坪
海外発展馆	300坪	観光館	300坪
農林館	600坪	社会館	400坪
水産館	350坪	教育館	500坪
蚕糸館	300坪	歴史館	400坪
染織館	300坪	保健衛生館	800坪
近代科学館	1,000坪	体育館	300坪
機械館	2,020坪	専売館	160坪
電気館	600坪		

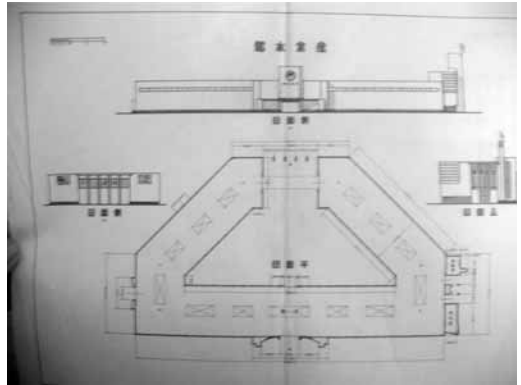
主要な陳列館の概要は次のとおりである。<sup>21</sup>

●産業本館は、この博覧会の主要な陳列館であった。樺太庁はじめ内地39県および19の全国著名会社・組合からの出品総点数は、12万7,549点となり、広く全国各地の特産物が出陳された。いずれも産業の粋を集め、装飾にも各々地方色をあらわし内容が充実し、当時の日本産業の発達に貢献することが期待された。

第一産業本館 第一産業本館は静岡県を始め16県、ならびに日本楽器製造株式会社を含めて8社が出陳し各地の主要産物、めずらし

い工芸品等を網羅した。出品人員は1,173名に上り、出品点数は60,0380点に達した。

第二産業本館 第一産業本館に向き合い隣接した第二産業本館には、三重県を始め13県の出品と松坂屋を始め知名会社、組合が出品し、北は秋田より南は沖縄に至る各地特産物の展示がされ、出品人員1644名、出品点数67,169点に達した。



産業本館の設計図

●愛知名古屋館 東会場の東門内両側に建設され、大名古屋市を象徴する八型<sup>22</sup>とした。南館800坪、北館1,200坪の両館に分かれ、これに附属建物とし事務室、倉庫25坪をあて、ならびに南館裏出入口に休憩所を建設した。館内は人工照明電飾で、出品物ならび装飾を一層華麗にするよう明り取天窓の造りを止めて日光を遮断し、光力豊かなネオンを使用した。

本館出品は名古屋汎太平洋平和博覧会愛知名古屋館共同出品協会において出品規定に依り愛知県下および名古屋市において生産製造された優秀品を網羅し、出品人員数は出品取纏め幹旋団体である市町村各種組合、連合会、その他団体個人出品人等3千数百名に上り出品総点数実に1万3千6百余点を数えた。そして館の中心地区を特別装飾出品とし各特別出

21 抄録であるとともに、現代語表現に直した。

22 名古屋は丸に八の字を市の紋章としているが、尾張徳川家の合印からとったものとされている。

品者は独自の意匠装飾を凝らし異彩を放った。

●**外国館** 外国館の出品施設は国内外の注目の的で、その成績の良否はこの博覧会の威信に重大な関係があった。その出品物の陳列、装飾は慎重を期し特別に考慮が加えられた。本館西入口壁面には参加主要国国旗を、また北入口上の壁面には世界大地図を描き、だれもが一目で直ちに外国館であることが判るように外装をした。館内の装飾に関しては、その国の有り様や風俗に一致する意匠を施した。海外参加29カ国中、特設館を除く14カ国の政府または公私諸団体の多彩で権威ある出品物を網羅し、世界文化の縮図といえる展示であった。本館に収められた出品物は合計1万余点に及び、米国は各都市毎に、その他はすべて国別に陳列した。

●**農林館** 農林に関する所産とこれに関する文化を展示すると共に、当時の農村における経済生活の向上啓発に資することを主眼とし計画施設された。正面入口中央に中心施設として農山漁村の更生村大模型を設け、山頂より平野を経て海岸に至るまでの理想農山漁村村の諸設備と組織とによる優秀なる経営進展の実状を動的に顕示し、これに次いで準中心施設とみなすべき農林省関係各局、陸軍被服、糧連合会、馬匹協会等16カ所より出陳された種々特異な重要参考品を配列した。

●**水産館** 我国の水産業は比類ない天然資源を享有する絶好の環境と古来からの漁労採藻の技に卓越し、果敢な国民性とがあいまって、ただ単に国家の一大産業としてではなく、今や我が国を名実ともに世界の水産王国とした。このごろ水産業の発達に力を注いでいるのは我国だけではなく、列国のいずれもが営々と水産業の開発興隆に努力をしている。そのある国は今日既に我国の最も有力なる敵手として登場してきた。来るべき海上漁權の争覇を前にして我が水産業者の任務は、いよいよ

重くかつ大きいといわざるを得ない。このような状勢の下に我が水産業は南北両洋の漁權、漁利、漁場開発に、あるいは漁獲物の利用増進に浅海および内水面の増殖に画期的な飛躍をおこないつつあるので、本館はこれらの活躍状況を一般国民に理解させるべく次の施設をつくった。(以下略)

●**蚕糸館** 蚕種製造、養蚕、製糸、生糸検査および貿易、絹製品など蚕糸絹業に関する諸々の施設を一堂に展示し、本国の重要産業である蚕糸絹業の紹介に努めるため、その出陳装飾および運営管理を日本中央蚕糸会に委嘱し、同会および愛知県蚕糸館協賛会ならびに全国有力蚕糸絹業団体その他の協力によって成立した。その構造は洋式建築とし全館電気照明により、外部正面に高さ40尺の塔を立て、全館は蚕糸館を表徴するため蚕糸絹業に因む装飾をし、内部の各ケース通路および天井の装飾は総て統一した施設とした。

●**染織館** 美術日本を大衆的に代表する染色の神秘を、種々の様式により展示した。その施設の概要は次ぎのとおり。

#### 中心施設「五十年後の服装と生活」

本施設は著名な斯界權威者の座談会を開催し、その意見を総合し立案された。時の推移と共に変遷する嗜好形態などを和洋両装の見地から男女別、大小別に展示し観客に多大の興味を与えた

●**近代科学館** 本館は西会場の西南部に位置し、入口にギリシア哲学者の像を配する堂々とした科学の殿堂であった。陳列内容は実に我国科学の総動員ともいえ、全国の総合、単科大学のほとんど全部および専門学校、各種研究所ならびに内務、陸海軍各省をはじめ、官公署諸会社等の多数の参加を得た。加えて各大学、専門学校教授等多数の熱烈なる援助により我国科学の粋をこの一堂に集めることができたといえよう。これはまた、本博覧会



の一特色となった。

●**機械館** 当初建坪1,500坪、陳列面積は600坪の予定であったが出品申込が殺到した。それらは有力なる機械類で、収容の余力なきに至ったために、遂に500余坪を増築し総建坪は2,020坪、出陳面積は925坪となり、機械展覧会場としては未曾有の規模なものとなった。殊にその出品は京、浜、阪、神、名古屋、九州の重工業ブロックを総動員したおもむきがあり、我国機械工業の驚異的發展を展観したもとして本博覧会の一特色となった。出品者総数は243名におよびその出品物は概ね組重大型にして基礎工事を要するもの大部を占め、且つ実演の関係上動力を必要とするが、これを幹線配置の関係上出品物の陳列配置は品種別に同種のものを集成することとした。

●**電気館** 近代文化の一驚異である電気科学の発達と応用を、各観点により展示するもので、館内の1,500平方メートル内には各種優秀電気製品を網羅展示し、我国電気製作工業の威容を示した。館内1隅342平方メートルを魔術室としてここに電気応用の驚異を集め、また他の1隅200平方メートルに現在最も衆目を惹きつつある電気応用参考品を陳列して、その応用原理を判りやすく説明を示した。なお、本館の使命に鑑み建築設計上可成電気応用の効果を示さんことを期待し、照明施設には特に意を用いた。

●**燃料館** 燃料は国家活動の源泉で、産業に国防に交通に家庭において、我々の日常生活に密接な関係があり、この開発、利用、需給の如何は直接に国の運命の盛衰に関連する国家重要資源のひとつである。この知識の普及徹底は極めて緊要のことであるので、本会は社団法人燃料協会の支援を得て特に本館を建設し、その計画万端を同燃料協会に委託した。館内は地上7尺の箇所より天井まで巾13

尺、周囲の壁面200坪を利用して石炭、石油、ガス、その他燃料の生産より加工、消費に至るあらゆる場面を描写し、各出品物はこれと連絡対応して陳列した。観覧者に見てその概念を会得させるよう努めた。この壁画は出品者の共同負担にして描写の要点を期するため、描画担当者を炭鉱、船舶、工場等の現地に派遣してその実景を描写させた。

●**資源館** 資源局幹旋の下に非常時日本の産業ならびに国防上重要な天然資源の採取、精製加工の利用に関する立体的陳列を主体とし、これに図表、模型、および実物を適当な配置により、各資源の原料事情、生産方法および国家総動員上の利用関係を明らかにし、当該資源の重要性を展示した。

●**国防航空館** 本館は建坪1,000坪、館内施設は海軍の偉容を示す展示物があり、催し物が行われた。水冷発動機、各種飛行機材料見本から海軍兵器の威力、海軍歴史など。また、館外陳列として40センチメートル実物大砲模型があり、運河で魚雷発射の実演も行った。

●**交通運輸館** 施設は、(1)鉄道軌道高速鉄道及自動車の部、(2)道路橋梁河川港湾運河の部、(3)船舶の部、(4)交通の今昔その他の部の4部に分けて展示した。

●**通信館** 出品施設ならびにその運用操作は総て名古屋逓信局に委嘱したもので、その出品方針としては、規模が広大な本博覧会の会場一巡に相当時間を要するので、観衆に倦怠感を与へないように、その出品物の選定、配列、装飾には特に留意し、出品物は通信関係の最新式機械とし、現に使用したのは本来実用に供するものの展示を主とし、統計ならびに図表類はすりガラスに着色模写し電気照明で展開し、観衆に深刻な印象を与えることを主眼とした。

●**ラジオ館** 本館の施設ならびにその運用

操作は総て名古屋中央放送局に委嘱した。我国の放送事業は大正14年東京市芝浦に電力500ワットの小設備をもって仮放送を開始したのを嚆矢とし、同年7月現在の愛宕山に移り本放送を始め、これと前後して大阪、名古屋の両放送局が開局され、その後全国的に放送網を設備拡充した。現在においては、全国に27の放送局を配置し、これに放送設置30を備え、聴取者は実に300万人を数えるに至った。この間における放送事業の内容は実に著しき進展の跡を示し、益々躍進の一途を辿りつつあった。元来我国の放送事業は国民精神の涵養と日本文化の向上とを二大使命とする鮮明な旗幟を掲げ、世界ラジオ界においても先進諸国の中において最も堅実な立場にあることを示した。特異の存在であり国家的重要機関であるにもかかわらず、一般大衆はともすると他の通俗的な娯楽物と同一視してしまうものが少なくなく、この誤った観念に対して事業の正しき認識を与へる目的で事業全体の内容を平易に紹介しようとする一方、難解とされるラジオ科学的知識の向上に資するため、電波に関する原理を通俗的に出陳することとした

●**観光館** 鉄道省ならびに国際観光局後援指導の下に風光の明媚と史蹟に輝く観光日本の概況を集成したもので、館内の陳列構成はあくまで近代式とし色調は銀および白、淡クリームを主調とし要所に明快な朱を置くなど、出品物とあいまって本館にふさわしい明朗な雰囲気をかもし出した。**付属施設 観光街** 本館は敷地600坪の内建坪300坪、庭園300坪より成り、観光街参加者による一種の特設館で本邦観光の粋ともいえる十景を選び、これに関係する地方の参加を求めた。その構作は一切地方出品者において何等の拘束がなく、各その地方を宣伝するため自由にその技を振ったので絢爛豪華たる施設となった。

●**社会館** 本館は歴世の皇化に共同偕和の社会生活を理念とする我国社会生活のおおよそを示すため組織化された現代社会施設を展示した。社会改善に役立つその施設を、社会生活の表徴、国の誇り、国の恵みの三つに大別して展示した。

●**教育館** 世界の中でとびきり優れた日本精神文化をはっきりと示し、その深遠なる根原を示唆し明らかにしようとする本館の施設概要は、次のとおりであった。(以下略)

●**歴史館** 本館は郷土の英雄織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の勤王と武勇の場面を中心とした一代記をパノラマ及びジオラマ等を用いて展示した。三公の年代を追って配列し、各場面に三公の関係年表を表示した。館の入り口に金鯱の実物の大模型を置き、館の中央正面入り口に三公の木像を展示し、その奥に建勲、豊国、東照宮の三社を展示した。

●**保健衛生館** 本館は、保健衛生特に都市衛生、家庭衛生、集団衛生に関する各種の資料を収集展示し、一般観衆に保健衛生の重要性を強調し、保健衛生思想の普及啓発に役立てる展示をした。本館建物はV字形で、中心施設として入口中央に高さ二十尺の人体科学工場模型を展示し、その右側部分は一般出品とし六大都市保健衛生施設模型、人体内臓諸器官標本、奇形、文身(いれずみ)、痘苗及血清の製作過程模型、写真等を展示し、東出口に栄養料理実演試食場を設け、名古屋市衛生試験所指導の下に五種類の栄養食調理を実演し、一般試食者の参考資料とした。その左側部分は産業出品とし、全国有名医療器具薬種商の出品物を展示し、西出口には健康相談所を設置し、X線透視、結核、性病、母性、小児、歯科、薬事その他一般の健康相談に応じ、あわせて場内観覧者救護の仕事に当らせた。

●**体育館** 建坪300坪、文化の発展に伴う国民体位の低下が国家的な重要問題であると

いう観点から、館内施設は体育運動の全貌を一般観覧者を対象として平易に紹介し、これによって国民体位向上の一助とした。我国における古代から現代に至る体育運動を種目別、季節別に模型等によって展示し、さらに都市体育、運動学の重要性を解説し、華やかなオリンピック大会を紹介した。

●**専売館** 本館は名古屋地方専売館局後援の下に、その施設および運営管理をすべて同局に委嘱し開設した。館内において官営工業の公開として口付朝日および両切バットの巻煙草製造実演をおこない、本博覧会を表徴する新意匠の包装で直接に館内即売所ならびに場内17ヶ所の小売店で発売した。その外、塩および樟腦の製造工程を模型ならびに煙草に関する文献、資料、参考品等を展示し、愛煙家は勿論一般観覧者に多大な興味を与えた。なお場内に国産優良樟腦ならびに食塩即売所を設置した。

5.2 内国特設館は以下のものであるが、資料によれば、「内国関係においては朝鮮、台湾、樺太を始め全国各道府県（鳥取県を除く）に及びてもれなく参加せられ、朝鮮、台湾、東京、大阪、京都、神奈川、兵庫、滋賀、岐阜の各地方はそれぞれ豪華なる特設館を建設せられその他はすべて第一第二産業本館に、それぞれ代表的生産品等を出陳せられており、なお右の外全国著名事業会社並びに著名新聞社その他の特設館または特殊特設物の設置を見るに至り本会会場に一段の異彩を添えられたり」<sup>23</sup>とされている。朝鮮館が内国設備とされるのは1910年の日韓併合以後、日本の国土とされたためである。台湾はもっと古く1895年以来日本の領土であった。

朝鮮館	179坪	滋賀県館	126坪
台湾館	240坪	岐阜県館	307坪
東京館	439坪	日本陶器館	100坪
大阪館	326坪	三菱館	200坪
京都館	260坪	トヨタ館	120坪
神奈川館	138坪	トヨタ式織機館	120坪
兵庫県館	438坪	日本製鉄館	94坪

●**朝鮮館** 本館は朝鮮総督府の施設で、出品物は同総督府、鉄道局、通信局、専売局、各道および朝鮮郵便株式会社の共同出品であった。又また、即売場は社団法人朝鮮物産協会が経営をした。本館の建築様式は朝鮮樓門式の三階建て樓門30坪（二階30坪）これに接続する平家140坪、葺卸家9坪、計179坪である。館内陳列場はパラペット装飾とし、古代樂浪模様に現代朝鮮式を加味したもので、柱、壁面、陳列室ともに総ベッチン張りであった。

●**台湾館** 本館は宏壮な台湾様式平家建てで、内装外観はともに台湾色を現した。館内に参考室、即売室、喫茶室、事務室、その他を設置した。

●**東京館** 本館は、中東門の右、貿易館の前面にあり海外発展館に隣接し、宏壮な近代様式の殿堂を建設し、外廓は二段のパラペットで全館の屋根を覆った。その上部の高さは35尺に、および正面玄関の空中にそびえる塔上には金色の鳳凰を設け、古典型四旗の吹流を掲揚し東京館のネオン文字でその標識とさせた。周囲は、淡クリーム色の塗装をして明朗化し、その一部を利用して皇紀2,600年記念日本万国博覧会の大壁画を掲げ一段と美を添えた。

●**大阪館** 本館は大阪市営繕課の設計で、その様式は従来の特設館と大いに趣向が異なり、博覧会建築には従来なかった新しい企画や工夫をした。その構造は間口12間、奥行35

23 同書、54ページ。

間、塔の高さ68尺で、自動エンジンを応用し可動建築構造法に拠る四方総ガラス張りの水宮殿であった。館内外はネオン、電燈および投光器を多分に使用したため、夜は大きな不夜城を誇ることとなった。

●**京都館** 本館は京都市出品協会の施設で、平安神宮の外形を模倣して建設したものである。陳列小間は、ガラス戸附陳列棚ならびに土間を合し、総数84小間半にして正面拜殿の中央には、大陳列棚三個を設け、京都の代表的物産である西陣織物類、染織製品および陶、銅、漆器、その他工芸品の総合陳列をし、その他の歩廊は片側に各種特産品を出陳し、なお館内一隅に接待所として茶室を設備し、宇治茶の宣伝に役立てた。

●**神奈川館** 本館は敷地約200坪を擁し、躍進型建築様式で天窓付き外側色彩ペンキ塗垂鉛張とし、地上約60尺におよぶ塔屋に「神奈川館」を標示し、なお館外周囲を緑化して特徴を添えた。館内設備は天井を薄布張とし周囲に陳列ガラス戸棚46小間半を配置し、陳列土間は19坪を設備し、通路の間隔を広め、かつモルタル塗仕上舗装工事を施し、更に通路上部に電燈を点火し照明に十分に注意を払った。陳列土間は正面に向かって左方より日産自動車株式会社、加藤石鹼製造所、横浜輸出絹物同業組合、長谷川製作所、日本鑄造株式会社、日本ビクター蓄音機株式会社、東京電気株式会社の順にそれぞれ独特な装飾陳列を行い、光彩を放った。

●**兵庫館** 本館は東会場に位置し、運河を隔て外国大サーカス、野外演芸場、子どもの国などの大余興場を控えた適当な地域に建設され、近代様式の白亜の殿堂で大兵庫県の壮観なる貫禄を示すものとなった。大舞台設備の灘代表銘酒出品を筆頭に兵庫県特産のリノリウム、織物、素麺、醤油、ゴム製品、播州金物、但馬杞柳製品、革細工品、アースタ

ムなどと、他方では重工業の川崎造船所出品をはじめ神戸製鋼所、その他発動機、工業品およびデシン、ワシミルク、塗料などの出品を適当な配置によって各特色と実質を真に表現した。

●**滋賀県館** 本館は東会場内特設館地区にあり、前面には大阪館、隣接地には神奈川県館があり、付近にはビクターレコード演奏塔、タクシーボート停泊場などがあり、観覧者を招き寄せるには格好の位置となっている。本館の建築は白色塗装の漆喰で壁面に暗緑色の装飾線を配し、瀟洒な姿態と明快な色調を表現した方形の白亜館とした。館内は物産、観光、湖魚宣伝場の三内容に分け、それぞれ本県の特徴を発揮することに努めた。

●**岐阜県館** 本館の外壁には世界一景として天下に冠たる長良川鶉飼の景および孝子の誉高い養老の滝を模写し、岐阜県の観光地を表徴した。館内は各物産および観光地の風景を陳列した。入口正面には「丸物百貨店」の特別装飾出品を陳列し、左側には高山市出品の木工品をはじめ、本県の重要物産である織物、毛織物、人絹縮緬、本製縮緬、陶磁器、雨傘などの名産物ならびに聖刀名高い「関の孫六」をはじめ各種打刃物を出陳し、右側には岐阜新名産葡萄酒、タンラン酒をはじめ各種名産菓子および織物界の寵児ともいえるステープルファイバー織物、その他雨傘、提灯、団扇および各種工芸品を出陳すると共に、山林王国としての本県林産物の各品を陳列し、続けて大垣市出品織物、その他各種雑工品を陳列した。

●**日本陶器館** 本館は日本陶器株式会社および同社の姉妹会社ならびに関係会社の製品を展示するため、東会場外国特設館区域ブラジル館に隣接西面し、扇形建物を特設した。出入口を正面の南北2ヶ所に設け、その中間に巾12間を磨きガラスを使用したショウウイ



ンドウとし、左記の各社出品物の一部を陳列し館内の全貌を外部より見透しできる構造とした。

●**三菱館** 本館は西会場内の国防航空館に隣接して建設された近代的白亜の建築物で、三菱商事株式会社名古屋支店、三菱重工業株式会社、名古屋航空機器製作所、三菱電機株式会社名古屋製作所共同施設の下に特設された。

●**トヨタ館** 本館は西会場東南部に建設され、博覧会唯一の地下道入口の最短距離に位置した。建物は近代式で外観を白亜装飾とし、僅かに館名を付けた外自動車形態を画くに止めた。全館の高さは30尺。なおその上に高さ三十尺の小麦色六角塔を東南部隅に設け、さらにその頂上より15尺の旗竿をそびえさせ、豊田自動織機の紡織部および自動車部の表象マークを組合せた社旗を掲げ、夜間の表示を一層有効とするために淡赤色の回転式ネオンにトヨタの文字を十字に架装し、九十度回転毎に観客の注意を引いた。なお塔入口の部分に淡青色のネオン装飾を施し、全館のすがたを清楚にした。

●**トヨタ式織機館** 本館を開設した主要目的は、現在、広く世間に知れわたるステープルファイバーの紡績および織布の一般を運転実演展示し、観覧者にこれに対する概念を徐々に理解させようとした。豊田式織機株式会社において特設したもので出陳した機械は次ぎのとおり。(以下略)

●**日本製鉄館** 本館は西会場内の資源館と燃料館との中間に位置し、日本製鉄株式会社により特設されたもので、その主な施設を述べれば次のとおり。(以下略)

5.3 外国特設館は以下のものである。蘭領印度は現在のインドネシア、冀東国は日華事変直前に河北省東部にあった日本の傀儡政権である。

満州館	302坪	中南米館	100坪
蘭領印度館	200坪	冀東館	120坪
ブラジル館	95坪	中華民国平津両市 工商界物品陳列館	140坪
シャム館	45坪		

●**満州館** 本館は満州国、関東庁、南満州鉄道株式会社協同施設の下に特設されたもので、建築様式は熱河の昌徳宮に従うと言われる瀟洒な近代的洋風平家建て、内部は明朗な極彩色、調度などで満州風装飾を施し、館内展示施設に付いては、満州の一般事情にわたり交通、産業その他主要事項に関し立体的にあるいは動的に、一見容易で且つ興味を抱いて観覧できる様に工夫を凝らし躍進途上にある満州の概要を認識させようとするものであった。

●**蘭領印度館** 本館は蘭領印度政府が特に代表者を派遣して経営し、建物もまた同国建築技師デッペー氏直接の設計ならび監督で成立した。建築は同国寺院風の壮美な様式に従い、内容は特異性を持ち、会場内で大きく異彩を放った。

●**ブラジル館** 本館は在横浜ブラジル領事館ならびに国立珈琲院東京ブラジル珈琲販売宣伝本部の施設で、世界的に著名なブラジル珈琲および同国主要物産を紹介した。

●**シャム館** 本館はシャム国政府、シャム商業会議所、在シャム日本人会、シャム日本商工会議所、名古屋シャム国名誉領事館共同出品施設の下に特設された。

●**中南米館** 本館は中南米諸国の南米諸国、ペルー、サルバドル、コロンビア、パナマ、グアテラマ、ベネズエラ、エクアドル、メキシコ、ホンジュラス、コスタリカの10カ国の政府、在外帝国公館その他諸団体などよりの出品物余点を陳列展示した。館正面表壁面には中南米地方に地図を画きて航路を示し、入口には数十種のメキシコの珍奇なサボテンを植え、西入口にはペルー政府の特別の好意

により国外搬出を禁止している珍獣ビクニア、アルパカを囲飼し、それによって国際的本博覧会を表徴した。なお、館内には中南米地方特産コーヒー宣伝のため、喫茶室ならびに即売所を設けた。

● **冀東館** 民国24年11月当時、澎湃として漲れる北支自治運動の潮流から防共自治、東亜和平の旗印の下に殷汝耕氏を総帥として成立した冀東防共自治政府が設置した外国特設館である。

● **中華民国平津両市工商界物品陳列館**  
本館は中華民国北平、天津、両市工商界の共同施設で、冀察政務委員会の後援および指導により開館した。

5.4 特殊特設物として列挙されている建物は以下のもの以下のものであるが、これらの設計図はない。

大阪毎日新聞映画会館	207坪	運河館	30坪
朝日新聞会館	74坪	ベニヤ館	35坪
新愛知新聞特設館	133坪	茶室	18坪
名古屋新聞太平洋観光施設	100坪	檜荘（蘇山荘）	48坪
透明人間模型館	45坪	文化住宅	60坪
愛知海苔館	64坪	紅檜荘	16坪

5.5 その他にも水族館、演芸館、野外演芸場並びに奏楽堂、迎賓館など重要な建築物があり、水族館を除きすべて設計図面があり、建物としても重要なものである。また、特設物及び付帯施設として、文化住宅街、観光街、商店街、広告塔、無料休憩所、興行物、各種案内所及び営業所、児童遊園、緑地帯、花壇、噴水、とりわけ博覧会の象徴的な建造物である平和の塔、その他があった。これらの建物は設計図がついている。また、会場の水上交通と中川運河からの搬送のために作られた運河にかかる4つの橋も重要な建造物であり、その設計図も添付されている。

事務局	南門
中東門	野外演芸場
中西門	近代科学館付属映写室
中央噴水	守衛本部
東会場飾り柱	消防本部
陸橋	警察本部
西門	郵便局
西会場飾り柱	市電案内所
迎賓館	救護本部
演芸館	市電案内所
奏楽堂	鉄道案内所
東門	装飾塔
平和塔	有料便所
東噴水	無料便所

### おわりに

この小論は資料集のようなものだが、私が高齢な名古屋汎太平洋平和博覧会にこだわるのかと言えば、2003年10月に「忘れられた博覧会」というテーマでテレビ番組を作りたいと提案があったからだ。名古屋汎太平洋平和博覧会のことは私自身が全く知らなかったということもあり、ほとんどないと予想された資料が出てきてからは、その規模の大きさに驚いた。建物の設計図が発見されたことで、会場全体を三次元のコンピュータ・グラフィックスによって再現するのがもっとも分かりやすいと思われた。当初はテレビ番組の制作を目標としていたため、静止画と動画を中心に作ったが、テレビ放送というものは非常にインパクトが強いけれども、1回限りの放映のためいわゆるアーカイブとしては不適當である。放送番組制作と平行してウェブ上での資料提供を目指すことにした。2004年11月現在、ほとんどの建物を制作し終わってウェブ上にサイトを立ち上げるべく作業が続いている。この制作には私のゼミ生が2002年卒業生から3代に渡って協力してくれている。本論がウェブアーカイブの基礎資料としての役割を果たすことができれば幸いである。

2004年11月